



夕焼けに染まった肱川の河口と瀬戸内海



龍馬の時代もかくや、と思わせる脱藩ルート

穏やかな海から波乱の人生へ

風のメッセージ

龍馬脱藩の道は、ところどころで生活道や林道と重なるが、大半は決して安寧ではない山道だ。その道無き道を、地元の有志が結成した河辺坂本龍馬脱藩の道保存会などが中心となり、整備と保存に努めている。道中、轟々と瀑音を響かせる滝が忽然と現れる。昔話に出てきそうな里山の風景もある。そうかと思えば、ざくざくと病葉を踏みしめる音と自分の息づかいしか聞こえないような神秘的な自然の真つただ中を歩くことも。龍馬はここで何を思ったのか。何を思ったのか。「歩く」という至ってシンプルな行為が、哲学的な思想の世界へと誘ってくれる。

榎ヶ峠からおよそ15キロ、泉ヶ峠は脱藩の途中に龍馬が宿泊したとされる場所だ。「わらじで歩こう」イベントは、ここがゴールとなっている。生い茂る木々の間に、「宿泊の地」と刻まれた記念碑がある。ここにしつらえた仮初めのしとねで、龍馬はどんな夢を見たのだろうか。その心境に少しでも近づきたくて、そっと目を閉じれば、吹き

抜ける風が木々を揺らす音だけが聞こえる。それは龍馬からのメッセージだったのかもしれない。

伊予長浜から大きな世界へ

泉ヶ峠を出立した龍馬二行は、宿間村（現在の内子町）で川船に乗り、小田川から肱川を下っていったとされている。肱川の河口の長浜地域にも龍馬ゆかりの場所がある。それは肱川のシンボルともいえる長浜大橋のすぐ近くにある「富屋金兵衛邸」だ。富屋家は、代々紺屋を生業としてきた豪商で、金兵衛は商売に邁進する一方で積極的に勤王の志士たちをサポートしていた。龍馬に先駆けて脱藩した吉村虎太郎は、後からやってくる龍馬の世話を金兵衛に頼んでいた。くたくたに疲れ切った龍馬にとって、金兵衛のもてなしはそれこそ涙が出るほど嬉しかったに違いない。現在も金兵衛の子孫の方が生活をしている富屋家の庭には「吉村虎太郎坂本龍馬宿泊の地」という石碑がひっそりと立っていた。翌日、龍馬は長州に向けて江湖の港から船出する。

伊予長浜から大きな世界へ。龍馬の疾風怒濤の人生は、さらに加速していく。

いろは丸の眠る瀬戸内海

平成22年、大洲藩に関する興味深い資料が公にされた。それは「いろは丸」の購入契約書だ。いろは丸は慶応2年（1866）に大洲藩が購入した蒸気船で、翌年4月8日には龍馬が率いる土佐海援隊に貸与された。だがそのわずか15日後の4月23日、長崎から大阪へと向かう航海中に備後灘で紀州藩蒸気船・明光丸と衝突。積み荷もろとも海の藻くずとなってしまう。この時、損害を取り戻そうとした土佐海援隊と紀州藩の間で日本初の海難審判が行われたことも有名だ。長く、いろは丸は大洲藩がオランダ



龍馬を温かくもてなした富屋邸（見学は迷惑にならないよう配慮を）

人のボードウィンから購入したという話が定説となっていたが、契約書を検証した結果、ポルトガル領事から購入したことが分かった。

長浜港の先に広がる瀬戸内海、その鞆の浦（広島県福山市）沖には今もいろは丸が眠っている。龍馬をめぐる歴史の謎解きは、これからが本番だ。

ドラマの舞台へ



映画「女の子ものがたり」 長浜の海

平成21年に公開された映画「女の子ものがたり」は、高知出身の西原理恵子さんの漫画作品を原作としている。そのメインロケ地のひとつとして選ばれたのが、山、川、海の自然が美しい大洲市。映画に登場するのは、一面にひまわり畑が広がる畑の前橋、五郎の土手、長浜の海など。大洲の叙情的な風景が、映画の感動をいっそう高めている。